

令和2年7月豪雨災害に係る熊本県内のボランティア活動と被災地調査について（報告）

ひょうごボランティアプラザでは、令和2年7月7日（火）に「令和2年7月豪雨災害ボランティア支援本部」を立ち上げるとともに、新型コロナウイルス感染症流行時における被災地へのボランティア活動について、地元の自治体やボランティアセンター及び被災者の方を訪問し、今後の災害やボランティア活動に備えるため、熊本県八代市などの状況について調査を行うこととなり、7月15日（水）、熊本県八代市及び人吉市に調査隊を派遣した。

1 日 付 令和2年7月15日（水）

2 調査者 ひょうごボランティアプラザ所長 高橋守雄
事務局次長 西森玲治
事務局副部長 豊島正明

3 行き先 八代市役所、八代市災害ボランティアセンター、
人吉市災害ボランティアセンター及び同市内の被災状況調査

4 調査概要

(1) 八代市役所

- ・ 市内でも被害の大きい坂本地区は高齢化率が50%を超えており、力仕事ができない。誰かに頼らざるを得ない。
- ・ ボランティアの人手が足りないのは事実だが、県外ボランティアの受入れは市では判断できない。県で方針を示してもらえないので、県とも相談して決めていく。

(2) 八代市災害ボランティアセンター

- ・ コロナの影響で普段と違う（県内で対応、3密を避ける必要等）対応が必要。
- ・ ボランティアのニーズ調査をすべきだが、被災住家にたどり着けないなど、もどかしい思いがある。ニーズ調査も、先週末の雨で予定していたところに行けなかった。
- ・ 被害が大きい坂本地区はそもそも通行止めで迂回せざるを得ず（普段は20分→今は40分）、ボランティアの拠点となるような場所もない（支所、コミセン等も被災 or 避難所になっている？）
- ・ 本日からボランティアの受付を開始し、80名が活動している

(3) 人吉市災害ボランティアセンター（人吉・球磨両社協で共同設置）

- ・ 球磨村内にボランティアセンターを置くスペースがなく、人吉と共同で設置している。
- ・ マンパワーが足りないことは事実。ボランティアの人手は欲しいという思いはあるが、一方で避難所従事者の新型コロナ罹患により、外部まで広げることについてハードルが上がったのも事実。

- ・ 特に球磨村では道路が片付いておらず、家に入れないう状態が続いており、ニーズが把握しきれないところもある。
- ・ 人手を上回るニーズがあることから、優先順位をつけて（独居者・高齢者優先）対応している。

(4) 地元住民Aさん

- ・ ボランティアの人手は足りない。来てほしいのはやまやまだが、新型コロナは気になる。
- ・ （受け入れるにしても）行政の段取りもあるだろうし、新型コロナでみんな遠慮しているところがある。

(5) 地元住民Bさん

- ・ ボランティアに来てほしいが、なかなか来てもらえない。人手が足りないので、お金を払って片づけてもらった。
- ・ 人吉は山に囲まれて不便だから、なかなかボランティアが集まらない、というところもあるのではないか。

(被災地の様子)

八代市



八代市役所（同市鏡支所）

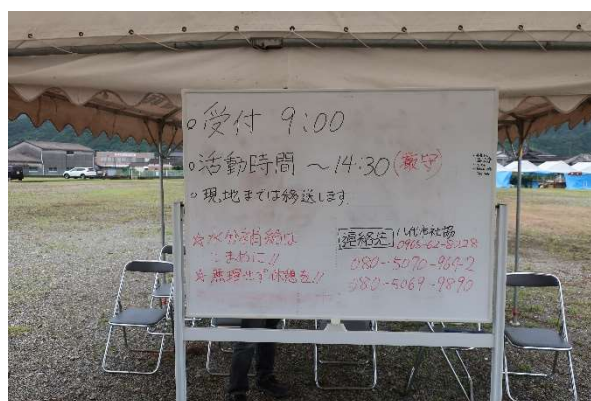


八代市副市長等との面談

八代市災害 VC



八代市災害 VC の外観 1



八代市災害 VC 内の掲示板

人吉市災害 VC



人吉市災害 VC の外観 1



人吉市災害 VC の外観 2

人吉市市街地調査



災害ゴミ 1



家屋内部 (天井近くまで浸水)



災害ゴミ 2



道路の様子



人吉市内の様子1 (球磨川沿い)



人吉市内の様子2 (球磨川沿い)



人吉市内の様子3



人吉市内の様子4